



経営(継業)のツボ

早川浩士

有限会社ハヤカワプランニング代表取締役

一を以て二を知らず

先日、「利用者さんが会いたいという人を本人または家族から聞き出して誕生会の当日に招待し、対面していただく企画を行いました」との報告が塾生から届いた。

主宰塾の場で「利用者さんが心待ちにしたくなるような誕生会を企画していますか？」との問いかけ

により「会いたい人との対面」を誕生日会に企画した長野県の塾生が取り組んだ姿勢は「一を聞いて十を知る(物事の一端を聞いただけで全

転期に立つ経営の視座²⁴ 一を聞いて十を知る

半年間、この企画に応じられた利用者さんは5人。元教師は最初の生徒さんと。国会議員の甥っ子と。スカイプを使ってニューヨークの孫と。お気に入りのヘルパーさんと対面。来所の難しい人からのビデオレターや手紙、花束なども届いたという。

体を理解する」と評価したい。

だが、「二を以て二を知らず」と言わざるを得ない人たちも多し。この差が質の差につながる。

利用者さんを「単なるサービスの客体ではなく、役割をもつ人間と定め、彼らがお世話を受ける受動的な存在におさまらず、役割を持

はやかわ・ひろし

経営コンサルタント。1991年に独立。介護事業に関する独自の調査に基づいたデータ分析を各誌・紙に発表。著書に『99の言葉の杖』(日本医療企画)、『早川浩士の常在学場』(筒井書房)、『介護人財創造塾』(筒井書房)、『介護保険改正に勝つ! 経営』(年友企画)、『データで徹底分析 介護事業の最新動向と経営展望』(日本医療企画)など。

<http://www.hayakawa-planning.com>

ブログ: <http://ameblo.jp/hayakawa-planning/>

未だ早いが遅くなる

ち、自らのさまざまな能力や残存機能を発揮し、その存在意義を見出すのを手助けすることがデイサービスでの役割である*の一文を添え、今まで行ってきた誕生会のあり方に一石を投じつつ、デイサービスの本来の役割を確かめるきっかけにしたいとのコメントから、「一を聞いて十を知る」という思考の組み立てと広がりを感じ取ることができた。

今号が通巻144号となる本誌は、2003年7月号の創刊から満12年の歳月を経て干支を一周りし、本連載も144回目。

介護保険事業計画は第2期から4期12年の実績を踏まえ、大きく変わろうとしている。だが、多くの介護事業所で変わらないものがある。その一つが、利用者さんの誕生日を祝う誕生会である。

開設してから毎月のように繰り返される、一枚の色紙を書くのも手間のかかる面倒な作業と思う職員が出てくるようになる。

「未だ早いが遅くなる」という諺がある。やるべきことに手をつけな

していると結局は間に合わなくなるという意だ。

会いたい人との対面が誕生会の席で実現するとは限らない。家族以外の幼友だちや知人など、会えずじまいの人に会えたという喜びは一人であったことも記されていた。

ここ数年、フェイスブックのメッセージ機能を使って友人の誕生日にお祝いの言葉を送信するのが毎朝の日課になっている。誕生日、おめでとうございます

東に向かつて親に感謝
西に向かつて家族に感謝
南に向かつて人生の師へ感謝
北に向かつて友人へ感謝

天地に向かつて大自然に感謝
おめでとうといっていたくのはなく、ありがとうとすべての命に合掌するのが誕生日
誕生日に学ばなければ
学び、学ぶ、学べ、学ぼう

多くのご縁に感謝

朝に希望! 昼に全力!

夕に感謝! 夜に爆睡!

充実した一日でありますように

次の改定まで3年。

まだ時間があると悠長に構えていると間に合わなくなる。

*[平成15年度都市型在宅サービス普及促進事業調査研究報告書]における「通所サービスの役割機能の再評価」東京都2003から